

Nobuaki Yamamasu Tenor Recital 2015

シューベルト 冬の旅

ドイツ、日本でのリサイタルでシューベルト「冬の旅」を取り上げてから、もう8年間が経ってしまいました。この間に私にも、その歌にもいろいろな変化が起きているでしょう。再会する「冬の旅」がどのような姿をとって私の前に現れてくるのか、楽しいような怖いような気持ちです。

深い悲しみを背負って冬の風景のなかをさまよう主人公ですが、絶望の連続にあっても明るい光が射す一瞬があり、春を夢見ることもあります。この異常な緊張をはらんだ音楽のひとつひとつの瞬間を浮き彫りにしつつ、みなさまとともにその旅路をたどることができましたら幸いです。(山柀信明)

里田恭子(ピアノ)
Kyoko Satoda

心情あふれる音楽

奈良県御所市に生まれる。奈良県立畝傍高等学校卒業。国立奈良教育大学芸術科音楽専攻を卒業。ピアノを上西宏、田原婦美子、古川由美各氏に、声楽を田原祥一郎、吉田弘子両氏に師事。ハイデルベルク教会音楽大学、ハイデルベルク教育大学にてピアノをグドゥラ・クレマーとギユンタ・クリーガー、パイプ・オルガンをヴァルフガング・ダルマン、ライナー・セレ、声楽をフォイアーハーケ、ジョン・ポーターの各氏に師事した。

現在ドイツ・デュッセルドルフを本拠地に教授活動、教育・啓蒙活動に献身するかたわら、歌曲伴奏や室内楽の分野で演奏活動を行う。優しく温かい音色と心情あふれる音楽解釈に、独自の優れた持ち味を示す。

小林周子(ピアノ)
Shuko Kobayashi

やさしく、そして力強く

神奈川県横浜市に生まれる。フェリス女学院短期大学音楽科卒業、同専攻科、研究科を修了。ピアノを川崎ミソラ、海老名みち、河野元の各氏に、歌曲伴奏をE.F.ザイラー氏に師事。海外ではザルツブルグにてカール・ゼーマン氏に、またベルリンにてヘルムート・ロロフ氏に師事した。

現在フェリス女学院大学で、後進の指導にあたっている。演奏活動としてはソロ・リサイタルのほか、声楽の伴奏、室内楽でも幅広く活躍している。力強いテクニックと構築性の高さはとりわけドイツ音楽でその本領を発揮し聴衆を魅了している。2002年以降の山柀信明テノールリサイタルでは、共演者として、そのますます充実した音楽を聴かせている。



“聖なる輝きと天上の歌声に満たされたテノール”
独・ラインネッカー新聞評

山柀信明(テノール)
Nobuaki Yamamasu

1992年よりドイツ、ヴッパータール歌劇場の専属ソリストとして本格的な歌手活動を始め、エッセン歌劇場など各地のオペラハウスにも客演してきた。

現在は西部ドイツ放送協会(WDR)に属するWDR放送合唱団の専属第一テノールを務めている。同合唱団で上演したマラー、メシアン、リゲティ、B.A.ツインマー、シュトックハウゼンなどの諸作品は音楽界で高い評価を得ている。またベルリン、チューリヒ、ミラノ、パリ、アムステルダム、ニューヨーク、ワシントンなどの諸都市への客演を成功裏に果たしてきた。

山柀信明の活動のもうひとつの柱は、宗教曲をはじめとするオーケストラ付き声楽曲などのソリスト活動である。バロック時代から20世紀にいたる広範なレパートリーでドイツ内外のコンサートに数多く出演している。

主なものとしては、J.S.バッハの受難曲、「クリスマス・オラトリオ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ハイドン「天地創造」、ヴェルディ「レクイエム」などが挙げられる。

これらに加え近年は歌曲演奏にも継続的かつ集中的に取り組んでおり、山柀の芸術活動における核心部分となっている。

横浜の生まれ。関東学院小・中学校、横浜緑ヶ丘高等学校卒業。東海大学教養学部芸術学科・同大学院にて福田達夫、松前紀男両氏のもとで音楽学を専攻する一方、声楽を東学、吉田旅人の両氏に師事。

渡独後はハイデルベルク教会音楽大学でジョン・ポーターのもとで声楽を専攻・修了。さらにシュトゥットガルト音楽大学で声楽をルーザ・ボザバリアンに、オペラをクラウス・ナゴーラに、歌曲演奏をコンラート・リヒターに学んだ。同オペラ科ディプロム取得。またヘルムート・リング主宰のシュトゥットガルト・バッハアカデミーにも度々参加し、アルド・バルディン、ジョン・エリオット・ガーディナーなどの指導を受けた。その後もフランシスコ・アライズ、エレナ・ネトヴィヒなどの著名な芸術家のもとで研鑽を深めてきた。

ドイツ、デュッセルドルフ市在住。

公式サイト「山柀信明の世界」:<http://yamamasu.world.coocan.jp/>
twitter もどうぞ: @nobuyamamasu



山柀信明のCD(好評発売中)

お求めはリサイタル会場か、赤れんが音楽工房(横浜)電話090-3064-3301(井上)まで。

故郷

山柀信明 日本を歌う

山柀信明: テノール
ピアノ: ユリア・セルチンスカヤ

Roving Spirits RKC8002
2,500円(税込)



故郷、浜辺の歌、さくらさくら、中国地方の子守歌、箱根八里、荒城の月、花、城ヶ島の雨、出船、叱られて、青待草、ひいでひいで、かんびょう、赤とんぼ、あわて床屋、べちか、待ちぼうけ、この道、椰子の実

計19曲収録



シューマン

歌曲集「詩人の恋」全16曲

Dichterliebe Op.48

テノール: 山柀信明
ピアノ: 大竹淳子

AKR-0001 2,000円(税込)

ここに集められた「日本の歌」は、西洋音楽が導入された時期に作られ、作曲家たちは西洋の技法と格闘しながらも、日本の情感を盛り込むことに成功し、真に日本人の「心の故郷」たる珠玉の名曲の数々となったものである。

長くドイツに暮らしている山柀信明は、ドイツ歌曲に向かうかのような姿勢で解釈し、純度の高い明快な表現を得ている。一方でこれらの歌にこめられた山柀の故郷によせる熱い思いは聴く者の心を打ってやまない。

「詩人の恋」はシューマンのみならず、ドイツ歌曲中の最高峰のひとつとされ、ことさらに愛好されている。歌詞はハインリヒ・ハイネの「歌の本」より取られ、ハイネの詩から咲き出た音楽は繊細をきわめ、魂が震えるようで、まさに「詩情」にあふれている。

シューマンの充実したピアノ・パートは大竹淳子が受け持ち、美しい音色とみずみずしい感情で魅了する。その響きによって、山柀信明は澄んだテノールの歌声、明確な言葉の扱い、感情の振幅をもってこの名作を歌いきり、聴き手を、詩と音楽の世界に誘う。